

研究会報告

第3回環境被害に関する国際フォーラム

第3回環境被害に関する国際フォーラム報告記録に寄せて

花田 昌宣

熊本学園大学水俣学研究センター長

水俣病患者の発生が公的確認された1956（昭和31）年から数えて今年で64年が経過した。

水俣病という大規模な環境破壊と健康被害をもたらした公害事件は、産業活動による広範な環境汚染を通じて重篤な患者が発生したこと、胎盤を通じて次世代にも重大な影響を与えたことなど、人類が初めて経験したものであった。

また、この水俣病事件は、政治、経済、法律、社会、文化など各方面に大きな影響をもたらした。さらに、水俣地域や新潟では、被害者達は今なおその傷が癒えておらず、問題も全て解決したとはいえない現状がある。

熊本学園大学では、2000（平成12）年に故原田正純先生を中心に水俣学研究プロジェクトを開始し、水俣病事件を様々な分野から多角的に捉え、水俣病の負の教訓を世界に発信し、未来にその教訓を残すような研究を行ってきた。

2005（平成17）年4月には水俣学研究センターを設置し、大学内および水俣現地に研究センターをおき、調査・研究・教育活動を行ってきた。また、カナダ、タイ、韓国、台湾などをはじめとする公害被害発生地域の調査研究ならびに交流も実施してきた。

その積み重ねの上に、私たちは、2006（平成18）年夏に「水俣病の教訓は活かされたか」という問い掛けを国内外に発する国際フォーラムを開催し、世界の14カ国・地域から、被害住民や研究者、支援者らを結集して経験および知の交流の場を設けた。

その後、日本では2011（平成23）年東日本大震災と福島原発事故を経験した。国外でも公害、環境破壊が多く発生するとともに地域住民・被害者の運動が各地で続いている。

2013（平成25）年には、さらに長期継続的な国際交流と水俣学の国際発信を願って、第2回国際フォーラムを開催した。これには、カナダ、タイ、韓国、中国、台湾からの参加、そして国内からは福島、新潟、熊本からの被害住民や研究者の参加を得た。

これらのフォーラム開催の目的は、水俣学の理念と方法に則り、国境を超え、学問の分野を超え、専門家と市民の分断を超えた取り組みによって、水俣の負の遺産（失敗）を繰り返すことのないような世界を構築することをめざすものであった。

その上で2019（平成31）年2月に熊本および水俣で開催された第3回国際フォーラムは、公平と正義に基づく実践的な議論の場となることをねらいとして、研究者だけによる国際会

議ではなく、国内外の公害被害発生地域の被害住民、研究者、NGO/NPO支援者らによって構成されるものであった。

この課題は以下の三点に集約される。

- 1) 日本において起きた水俣病が引き起こした被害につき、その教訓が日本国内のみならず世界において、どのように活かされたか、あるいは活かされなかったかを検証する。
- 2) 世界各地の環境汚染が引き起こされ被害が発生している地域において、日本の経験が教訓として活かされたかどうか、各地で進められている環境復元の取組みについて経験の共有をはかり、現在の課題は何かについて相互理解を深める。
- 3) 世界各地で起きていることに関する共通認識を深め、水俣の教訓はいかにすれば活かされるのかを検証し、将来に向けて発信する。

本報告記録は、第3回フォーラムに参加された方々の報告を収めている。海外からは中国、韓国、カナダ、国内では新潟・熊本（水俣）から報告者を得ることができた。このフォーラムは、新たな出会いの場であり、また旧交を温める場でもあった。そもそもは原田正純先生が築いた国際的な縁をひきついだものであり、また新しく発展させたものである。このような国際的な知と経験の交流が、継続的な円環となって、公害による環境破壊や健康被害のない社会づくりに役立つことを願って報告記録を公開するものである。

なお、編集にあたって下記のこと留意したため、ここに記したい。

- ・ 編者と担当した国・地域は、花田昌宣はカナダ、中地重晴は韓国、藤本延啓は中国、田尻雅美は新潟、井上ゆかりは基調講演と水俣とした
- ・ 報告者の発言の雰囲気や伝わるよう、原則として口語調のままとした。しかし、発言の意味を補充する必要がある部分には、各編者が資料などから補完した
- ・ 掲載順は、当日のプログラムをもとにした
- ・ 頁数の関係上、報告者が使用したパワーポイントを必要最小限に使用した
- ・ パワーポイントで使用された図や写真は、そのまま掲載した。ただし、カラー原本で白黒印刷では分かりにくい場合に限り、図表の色を報告者のパワーポイントを変更することなく白黒で分かりやすいよう編集した
- ・ パワーポイントで使用された表で、そのまま掲載すると判別しにくいものは再度作成した
- ・ 日本の報告者によっては、西暦または和暦で報告がなされたが本書の性質上、和暦の場合を「西暦（和暦）年」で統一した。ただし、「和暦年代」の場合は和暦のままとした。和暦が当てはまらない海外の報告者については西暦のままとした
- ・ 報告者の所属は、プログラムに掲載したものを付した
- ・ 報告者の略歴は、予稿集に掲載したものを必要最小限に付した
- ・ 報告者の参考文献は、必要最小限のものを紹介した

第3回環境被害に関する国際フォーラム－水俣病・失敗の教訓を将来に活かす－プログラム

1日目：2月22日(金) 熊本学園大学 高橋守雄記念ホール

開始	終了	行事名	報告者	所属	報告タイトル
9:30	9:40	主催者挨拶	花田 昌宣	熊本学園大学水俣学研究センター長	
9:40	9:50	理事長挨拶	目黒 純一	熊本学園理事長	
9:50	10:40	記念講演	宮本 憲一	大阪市立大学名誉教授・ 日本環境会議名誉理事長	公害被害の救済と地域再生の歴史的課題 －水俣病を中心に－
10:40	11:10	基調講演	花田 昌宣	熊本学園大学水俣学研究センター長	第3回国際フォーラムの課題： 失敗の教訓を将来に活かす
11:10	11:20	休憩			
11:20	11:30	セッション1	座長 中地 重晴	熊本学園大学水俣学センター事務局長	趣旨説明
11:30	12:10	被害の現状報告とアピール	カナダ マーヴィンリーマクドナルド	ヴァバシムーン 代表	ヴァバシムーンのこれまでと現在
12:10	12:55	昼食休憩			
12:55	13:35	被害の現状報告とアピール	韓国 チョ スンミ	加湿器殺菌剤被害者	加湿器殺菌剤生存者の証言
13:35	14:15		韓国 キム ドクジョン	加湿器殺菌剤被害者家族	加湿器殺菌剤被害者たちの活動
14:15	14:35		中国 フォ ダイシャン	淮河水系生態環境科学センター	淮河汚染対策と癌の村の変遷
14:35	14:55		新潟 萩野 直路	新潟水俣病第3次訴訟を支援する会事務局	日本政府は水俣病をメチル水銀中毒として扱っていない
14:55	15:15		水俣 佐藤 英樹	第2世代訴訟団長、水俣病被害者互助会	裁判や運動の原動力
15:15	15:25	討論・質疑応答			
15:25	15:35	セッション2	座長 花田 昌宣	熊本学園大学水俣学研究センター長	趣旨説明
15:35	15:55		中国 チョウ ギョクリン	南京大学教授	中国の環境被害と環境政策
15:55	16:35		韓国 チェ イェオン	大韓民国政府機関社会的惨事特別調査委員会 副委員長	生活化学物質の居間襲撃・加湿器殺菌剤惨事
16:35	17:15	問題解決に向けて	カナダ ジュディダシルバ	グラッシーナロウス	グラッシーナロウス水銀汚染の状況
17:15	17:35		水俣 田尻 雅美・井上 ゆかり	熊本学園大学水俣学研究センター研究員	「紛争」解決としての水俣病施策 －終わることのできない水俣の今
17:35	17:55		新潟 齋藤 恒	新潟勤労者医療生活協同組合木戸病院名誉院長	阿賀野川流域のメチル水銀中毒症調査
17:55	18:20	総括討論			
18:20	18:30	総括	花田 昌宣	熊本学園大学水俣学研究センター長	

2日目：2月24日(日) 水俣市民館ホール

開始	終了	行事名	報告者	所属	報告タイトル
9:30	9:40	主催者挨拶	宮北 隆志	熊本学園大学水俣学現地研究センター長	
9:40	9:50	来賓挨拶	高岡 利治	水俣市長	
9:50	10:20	セッション3	座長 中地 重晴	熊本学園大学水俣学センター事務局長	水俣とカナダの汚染サイトの修復について
10:20	11:00	健康被害と地域再生の取り組み－多様な道筋－	韓国 チョ スンミ	加湿器殺菌剤被害者	加湿器殺菌剤生存者の証言
11:00	11:40		韓国 キム ドクジョン	加湿器殺菌剤被害者家族	加湿器殺菌剤の子どもを亡くした遺族の証言
11:40	11:55		中国 フォ ダイシャン	淮河水系生態環境科学センター	淮河水銀汚染対策と癌の村の変遷
11:55	12:40	昼食			
12:40	13:20	健康被害と地域再生の取り組み－多様な道筋－	新潟 水澤 洋	新潟水俣病患者	長い道のりだった
13:20	13:40		水俣 佐藤 英樹	第2世代訴訟原告団長、水俣病被害者互助会	裁判や運動の原動力
13:40	14:15	質疑・意見交換			
14:15	14:30	休憩			
14:30	15:30	セッション4 パネルディスカッション 将来の課題と国際連携	座長 花田 昌宣	熊本学園大学水俣学研究センター長	
15:30	15:40	休憩			
15:40	16:40	パネルディスカッション 将来の課題と国際連携	各国代表		
16:40	16:50	総括討論			
16:50	17:00	閉会挨拶	花田 昌宣	熊本学園大学水俣学研究センター長	